

都市の住宅地における散歩行動の実態

九州産業大学 学○ 木村 哲也 九州産業大学 学 渡慶次 賀嗣 九州産業大学 正 白 泰晃
九州大学 正 外井 哲志 下関市立大学 正 坂本 紘二 福岡コンサルタント 正 中村 宏

1. はじめに 近年、健康面からの歩行や散策の重要性の高まりの中で、安全だけでなく、散歩道としても気持ちよく歩ける歩行空間を質・量ともに充実させることが要請されてきている。

著者らは、このような観点から、平成6年10月、福岡県田主丸町において散歩行動に関する調査を実施し、その分析結果から多くの興味深い知見を得たが、それらの内容の普遍性を確認する意味から、平成9年10月に都市部を対象とした散歩行動の実態調査を実施した。

本報告は、この都市住宅地における散歩行動の実態を分析し、地方部である田主丸地区の場合との比較を行ったものである。

2. 調査の概要 福岡市南区大池・長丘校区を対象に、個人属性、世帯属性、散歩行動の実態（散歩経路を含む）、その他生活環境などの項目からなる散歩行動調査（訪問配布・訪問回収法）を実施した。合計911部の調査票を配布し、588部を回収した（回収率64.5%）が、有効回答数は511であった。

3. 散歩行動に関する分析結果 有効回答の性別内訳は、男性243人(55.7%)、女性305人(44.3%)であり、年齢構成は、表-1に示すとおりであった。

表-1 有効回答者の年齢構成

20才未満	50人	9.1%
20～30未満	64	11.6
30～40未満	100	18.1
40～50未満	132	24.0
50～60未満	75	13.6
60～70未満	69	12.5
70才以上	54	9.8
無回答	7	1.3
合計	551	100

表-2に散歩の頻度の分布を示す。南区では年に数回以上散歩をする人が全体の77%、全く散歩をしない人が23%となっている。田主丸地区での調査ではそれぞれ58%、42%であり、都市部では、散歩者の割合が高いことがうかがわれる。男女別の散歩の頻度を表-3に示す。男性よりも女性の方が散歩の頻度は高い。年齢別の散歩頻度を図-1、図-2に示す。「ほぼ毎日」と「週に2、3回」の合計は年齢層が上がるにした

表-2 散歩の頻度

	南区		田主丸町	
ほぼ毎日	96人	17.4%	137人	16.8%
週に2、3回以上	93	16.9	120	14.7
月に2、3回以上	120	21.8	107	13.1
年に数回程度	115	20.9	107	13.1
全くしない	127	23.0	343	42.1
合計	551		814	100

表-3 性別の散歩頻度

	南区		田主丸町	
	男性	女性	男性	女性
ほぼ毎日	13.6%	20.7%	13.9%	19.1
週に2、3回以上	12.3	20.3	13.6	15.6
月に2、3回以上	22.6	21.0	12.3	13.8
年に数回程度	21.8	20.0	12.5	13.6
全くしない	29.6	18.0	47.6	37.8
合計	100	100	100	100

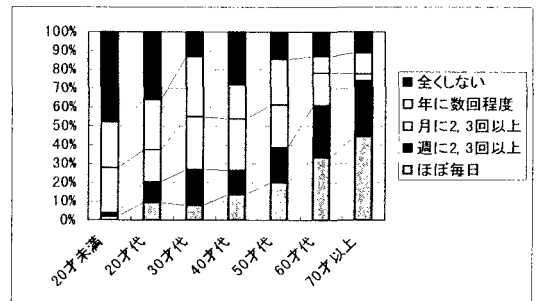


図-1 年齢別の散歩頻度（南区）

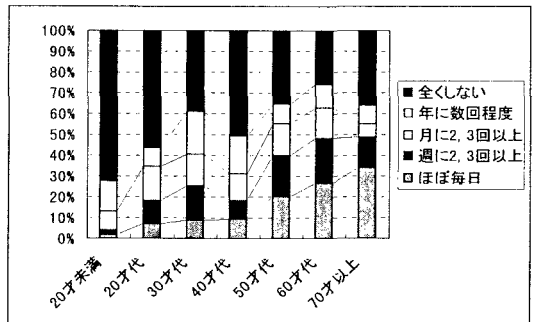


図-2 年齢別の散歩頻度（田主丸町）

がって増加しており、70才以上が最も多く(88.9%)となっている。また、40歳代では前後の年齢に比べて「全く散歩しない」人の割合が増加している。散歩の目的については表-4に示すように、「体力向上・健康維持」と「気分転換」が同数で24.1%と多く、

表-4 散歩の目的

気分転換のため	205人	24.1%
体力向上・健康維持のため	205	24.1
日課として	40	4.7
なんとなく	47	5.5
犬の散歩	58	6.8
子供を遊ばせながら	64	7.5
買い物がてら	122	14.4
ひまつぶし	33	3.9
その他	5	0.6
無回答	71	8.4
合計	850	100

表-5 散歩の目的

目的地はなく、自宅周辺を歩く	201 (人)	47.3%
公園・水辺など目的地へ行って、時間を過ごす	95	22.4
数カ所の主要な場所（ポイント）を決めて巡る	39	9.2
自然・街並み・路上の観察をする	52	12.2
その他	32	7.5
無回答	6	1.4
合計	425	100

表-6 散歩の時間

	南区		田主丸町	
30分未満	88人	20.9%	218人	47.0%
30分～1時間	258	61.1	210	45.3
1～2時間	66	15.6	34	7.3
2時間以上	10	2.4	2	0.4
合計	422	100	464	100

表-7 散歩の時刻

	南区		田主丸町	
早朝	43人	10.1%	102人	20.2%
午前中	69	16.3	55	10.9
昼休み	6	1.4	6	1.2
午後	72	17.0	53	10.5
夕方(夕食前後)	87	20.5	88	17.4
夜間	24	5.7	73	14.5
特に決めてない	123	29.0	128	25.3
合計	424	100	505	100

「買い物がてら」も14.4%で比較的多くなっている。田主丸では、「体力向上・健康維持」が46.1%とほぼ半数を占めていたが、南区ではこの目的の割合が相対的に低くなっている。散歩の種類については、表-5に示すように「自宅周辺を歩く」タイプの散歩が47.3%、次いで「時間を過ごす」タイプの散歩が22.4%と多い。散歩の時間（表-6）は、南区では「30分～1時間」の散歩時間が60%以上を占めており、「1～2時間」の割合も高く、田主丸の結果に比べて散歩時間が長い。散歩の時刻（表-7）は、南区では「夕方」（20.5%）、「特に決めていない」（29.0%）が多い。これに対し、田主丸では「早朝」（20.2%）、「特に決めていない」（25.3%）が多い。また、南区では夜間と早朝の散歩が少ない。散歩コースを選んだ理由の頻度を図-3に示す。理由として⑮自宅の近くにあるからを挙げる割合が高い（22.8%）が、次いで、

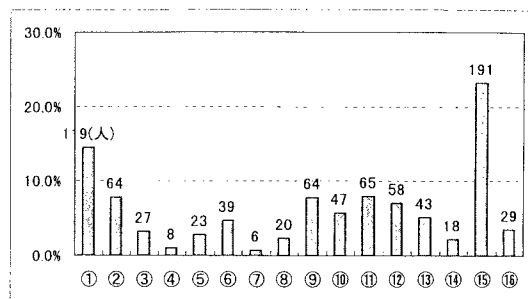


図-3 散歩コースを選んだ理由

注) ①静かで、気持ちが落ちつく②休憩できる場所・見晴らしの良い場所がある③商店や人が多く、にぎわいがある④楽しい⑤迷路のようで、何かおもしろいものを発見できそう⑥街並みの景観が美しい⑦道の両側の家々の生け垣や庭の花がきれい⑧歴史的な建物や史跡があり、それらを見て楽しめる⑨散歩仲間と話ができる⑩自然の動植物に接することができる⑪川や池、堤などの水辺があって気持ちがよい⑫美しい自然の風景がある⑬自動車が滅多に通らないので安全⑭路面に土が残されていて歩きやすい⑮照明設備が充実しており、明るい道⑯自宅の近くにある⑰その他

①静かで気持ちが落ちつくから（14.3%）、⑪美しい自然の風景があるから（7.9%）、②休憩できる場所・見晴らしの良い場所があるから（7.8%）、⑩自然の動植物に接することができるから（7.8%）などをあげる人が多く、都市的要素や、にぎわいよりも自然・落ち着きを求める傾向が強いことが分かる。

4. 結論及び課題 都市部の住宅地における散歩行動の実態調査に基づいて分析した結果、1)散歩をする人の割合が高いこと、2)女性や高齢者の散歩頻度が高く、田主丸地区と同様の傾向が示された、3)目的地のない自宅周辺の散歩が多い、4)散歩時間の割合は30分～1時間が全体の6割を越え、田主丸地区よりも散歩時間が長い、5)散歩時間は、「特に決めていない」が約3割に達するが、田主丸地区に比べて夕方の散歩が多く、早朝や夜間の散歩が少ない、などの傾向がある、6)散歩コースを選んだ理由では、自宅近くにあるからと静かだからという理由が多いこと、等が明らかになった。散歩行動を規定する要素は、散歩者の属性等のよっては変わらないが、年齢構成を含む地域の特質の違いが散歩行動パターンに反映していることがわかった。今後、散歩行動の分類および散歩経路の分析を行い、田主丸地区の分析結果と比較する予定である。

(参考文献)

- 1) 外井、坂本、井上、中村、根本：散歩行動の実態とその類型化に関する研究、土木計画学研究・論文集No.13, pp.743-750, 1996.8
- 2) 外井、坂本、井上、中村、根本：散歩経路の道路特性に関する分析、土木計画学研究・論文集No.14, pp.791-798, 1997.9
- 3) 外井、坂本、井上、中村：散歩経路の形状分類と散歩属性との関連性に関する分析、土木計画学研究・講演集No.20, pp.465-468, 1997.11